

なめがた市民 100 人委員会「第1班」議事概要

議論した基本目標	③-1子どもを産みたい希望をかなえすみたいまちをつくる ③-2子育てしやすい地域にする
コーディネーター	石井聡(神奈川県逗子市)
審議員	石渡秀朗(構想日本)
説明担当者(自治体)	健康増進課、子ども福祉課
日時	2021年7月17日(土)16時00分から17時00分
その他	参加者数 会場4名 オンライン:0名 欠席者数16名

総括

コーディネーター総括

- 今回がアイデアをいただく最後の機会です。今後、これまでの議論をまとめ総合戦略改訂版の素案作り作業を進める。そのためにも改善提案シートの提出をお願いします。

協議の流れ(摘録)

≪前回の振り返り≫

- コ) 子育てについて役所は小さい子たちの施策が多かったが、市民からは高校進学、通学費などの問題が大きく取り上げられた。実態調査を市役所に依頼しており、明確になると思う。
- コ) 子育てについて役所は多くの仕事をしているが、もう少し地域や個人ができることがあるのではないかと考えている。
- コ) 逗子の例で高齢者がボランティアで、交差点で通学の子どもたちを見守る例がある。今日は地域や個人ができることについて考えてほしい。

≪今回の議論≫

- 市) 新たに追加した「地域力を活かした子どもの居場所づくり」について、「豊かな自然」、「恵まれた農水産物」、「可住面積の広いことでのびのびと子育てできる環境」に加え豊かな人材など地域力を生かした「新しい地域子ども・子育て支援」をみなさんと一緒に考えたい。
- 市) 3世代同居が多く、地域の力が活かせると考えている。
- 委) 昔はスポーツ少年団活動が盛んだった。今でも外遊びする場所があれば子どもたちは外に行くと思うが、行方は敷地が広く休耕地などがあって、公園は必要ない。子ども会行事なども少なくなった。人家が少なく危険な場所を回避して遠回りする必要もあり、改善できないか。下校時には地域の見守りをしてくれており、安心。継続してほしい。高齢者に「子どもと一緒に子どもに合わせて歩いてみませんか。」と呼びかけ、高齢者が小学生の後について散歩するなど、地域の見守りができると思う。
- 委) 雨の日はドアトゥドアの送迎が行方の特徴。渋滞もするし危険もある。雨の日も歩くよう

に誘導することも必要ではないか。

委)家の周りは農地も多く学校も遠い。地域の見守りしたいが、働いている人は時間が合わない。学校に子どもの居場所をボランティアの活用で作ってほしい。

コ)逗子では一定の社会経験を積んで比較的高齢で出産したママ達が多くなり、その支援が必要になった。行方はどうか。(石井)

市)相談業務についてリアルタイムで受けられる体制をとっている。スマホアプリでも相談できる窓口を開設した。相談したい人には窓口を設けているが、相談できない人たちのケアに問題があると思う。

市)若年妊婦は相談に親がついてくるので、そうしてくれると助かる。

委)小児科、産科の現状はどうか。

市)小児科市内1か所、産科市内2か所。

委)出産は実家の近くでするだろう。産科は市内に絶対に必要だとは思わない。一方、小児科は必要だと思う。

委)子育て経費(費用)の問題が大きい。

委)小児医療費の無料化など、少子化対策には税金を使ってもやるべきことはやる必要がある。

委)費用だけではない。行方は田舎で、長男世襲で長男は土地を離れられない傾向があるが、それを守ることは子どもを産み育てることに有効に働くと思う。土地を離れない要素があるべき。仕事や進路を選べたり住みやすさなどを考えるべき。

市)実家が行方市であることが大事。娘を引き留めていくこと(転出抑制)が大事。それで自然に成婚率も上がり子どもも増える。

委)なめテレで行方のUターン、Iターンの広報を行うことも必要ではないか。

市)移住定住対策で、雇用機会も多く、災害も少ないことをPRしたが、大きな効果がない。縁故者を引き留める又はUターンを促すことが大事だと思う。

ホワイトボードの写真(コーディネーターが議論をまとめた資料含む)

